

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と健やかな体をもち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために、次の「目指す学校像」を設定し学校経営を推進する。

【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校
 - ・分かる授業が展開され、一人一人が生き生きと活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校
 - ・認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域に開かれ 信頼される学校
 - ・保護者や地域との連携を強化し、協力し合って児童を育成する学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、さらに認め伸ばし、豊かな心の育成に努める。
- (2) 一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、義務教育9年間を見通し、基礎・基本の定着を図るとともに、「分かる、楽しい授業」を展開し、新学習指導要領を踏まえた確かな学力の向上に努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、児童・教職員一人一人が生き生きと前向きに安心して生活できる健康で安全な学校づくりの推進に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、サービスを厳守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるように努める。
- (5) 家庭・地域社会と連携を密にし、信頼と協力を基盤とする「開かれた学校づくり」に努める。
- (6) 小中一貫教育の推進を図るとともに、「石井小学校地域協議会」と連携し、児童の学習支援や安全確保、健全育成等、地域の教育力を生かした学校づくりに努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】 「地域協議会」との連携のもと、地域の教育力を活用した学校づくりの推進
(1) 豊かな心の育成 (2) 確かな学力の定着 (3) 体力と気力の増進 (4) 自主的・自立的な態度の育成
- 【学 習 指 導】 「豊かなかかわりの中で、生き生きと活動する児童の育成」
～地域の教育資源を生かした社会科の授業づくり～
○(1) 基礎・基本の確実な定着 (2) 学習指導の工夫改善 (3) 読書活動の充実
(4) 家庭・地域との連携・協力
- 【児 童 生 徒 指 導】 「発達段階と個人差を踏まえた基本的生活習慣の確立を目指す児童の育成」
○(1) 基本的生活習慣の育成 (2) 規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3) 望ましい集団づくり
(4) 個に応じた指導の充実 (5) 家庭・地域・関係機関などとの連携
- 【健康(保健安全・食育)体力】 「自己の健康・体力についての理解を深め、その向上に努める児童の育成」
～保健指導や学級活動との関連をふまえた教科体育の工夫～
○(1) 望ましい食生活の育成 (2) 健康・体力の向上 (3) 家庭・地域との連携

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価 数値は肯定的回答の割合（％），囲み部分は数値指標対象								
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 日常の指導において，児童が自主性や主体性を発揮できる場の確保に努める。 (1) 体験活動を重視した学習活動の積極的な展開 (2) 学級活動の充実による，明るく，活力のある学級風土づくり 2 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して，児童の主体的な活動の場を確保し，楽しく，活気あふれる学校づくりを目指す。 (1) 縦割り班活動の工夫 (2) 学校行事や児童会運営への児童の参加促進	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>95.9</td><td>100.0</td><td>91.4</td></tr></table> 数値指標は，児童の肯定的回答が 90%以上であり，十分満足できる結果となった。 学年・学級経営計画に基づく組織的な取組や，評価サイクルを活用した児童会活動や学校行事の工夫・改善により，体験活動を重視した，児童の自主性や主体性が十分に発揮できる活動の場が確保され，楽しく，活気あふれる学校づくりが推進されたと考える。 【次年度の方針】 児童会活動や学校行事の工夫・改善を一層推進するとともに，縦割り班活動の内容を充実させ，児童の主体的な活動の場の確保に努めることで，楽しく，活気あふれる学校づくりを更に推進できるよう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	95.9	100.0	91.4
	教職員	保護者	地域住民	児童								
	100.0	95.9	100.0	91.4								
A 2 教職員は，組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は，大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 一人一人の教育的ニーズを十分に把握して児童理解に努めるとともに，組織を活用した指導の充実を図る。 (1) 教育相談や保護者との懇談を通じた児童理解の推進 2 日々の学習指導の工夫・改善に努め，「分かる，できる」楽しい授業づくりを目指す。 (1) 授業のねらいの明確化 (2) 指導形態や指導方法の工夫 (3) 個に応じた支援の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>100.0</td><td>95.1</td><td>97.9</td><td>97.8</td></tr></table> 数値指標は，児童の肯定的回答が 95%以上であり，十分満足できる結果となった。 「分かる授業が展開され，一人一人が生き生きと活動している学校」という学校像の具現化を目指し，教職員一人一人が学校経営ビジョンをしっかりと理解し，自己設定した行動指針に基づき，協働して学習指導及び児童指導に取り組んできた成果が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 現状に満足することなく，今年度の反省を基に，教育相談や保護者との懇談の機会を更に充実させるとともに，一人一研究を中核とした自主的な研修を通して，日々の学習指導の工夫・改善に努め，「分かる，できる」楽しい授業の推進を図よう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	95.1	97.9	97.8	
教職員	保護者	地域住民	児童									
100.0	95.1	97.9	97.8									
A 3 児童は，授業と生活のきまりやマナーを守り，秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 基本的な生活習慣育成の徹底を図るとともに，規範意識を高める指導の充実を図る。 (1) 「石井っ子の生活」に基づいた指導の充実 ① 家庭との連携の工夫 ② 自己評価の活用法の工夫 (2) 生活当番組織を活用した日常生活指導の充実 ① 生活目標の周知方法の工夫 ② 朝の会や帰りの会を活用	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>97.1</td><td>94.4</td><td>91.8</td><td>83.8</td></tr></table> 数値指標は，児童の肯定的回答が 80%を超え，目標値を達成することができた。 月間目標に基づいた週目標を設定しての全校体制による生活指導や「石井っ子の生活」に基づく意図的・計画的な指導が浸透してきた成果が表れたものと考えられる。 【次年度の方針】 「石井っ子の生活」に基づいた計画的な指導を継続するとともに，学期単位で指導事項	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1	94.4	91.8	83.8	
教職員	保護者	地域住民	児童									
97.1	94.4	91.8	83.8									

	した児童の主体的な活動の 推進		の習得状況を確認することで、基本的な生活 習慣の育成を一層推進するようにする。また、 児童会活動との関連を図り、児童の主体的な 活動を推進するとともに、家庭との連携を強 化して、より組織的な児童指導を展開し、規 範意識を更に育むよう努力する。								
A 4 教職員は、分かる授業や 児童にきめ細やかな指導を 行い、学力向上を図ってい る。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一 人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 学校課題を中心とした全校体 制による授業研究をとおして、 「分かる・できる授業」づくりを 積極的に推進する。 (1) 単位時間及び単元の指導法 の工夫・改善 (2) 「一人一研究」実践による 指導法の工夫・改善 2 児童一人一人の学習状況を的確 に把握し、個に応じたきめ細や かな指導を充実させる。 (1) 少人数指導や T.T による指 導の工夫・改善 (2) 朝の活動を利用した基礎学 力の向上	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>86.1</td><td>100.0</td><td>95.5</td></tr></table> 数値指標は、児童が約 95%の肯定的回答で あり、十分満足できる結果となった。 「分かる・できる授業」づくりの積極的な 推進、個の実態に応じたきめ細かな指導の充 実等が評価されたと考えられる。しかし、保 護者と教職員の意識に開きがあることから、 学習指導に関して、より積極的な情報発信を 展開する必要があると考えられる。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	86.1	100.0	95.5
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100.0	86.1	100.0	95.5								
A 5 教職員は、いじめが許さ れない行為であることを指 導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないこ とを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 道徳の時間を要とした道徳教 育を充実させ、人権感覚の醸成を 図る。 (1) 「いじめ問題」や「生命尊重」 を題材とした道徳授業の実践 (2) 児童主体による「いじめゼロ 集会」の実践と関連付けた道 徳授業の展開 2 全校体制による組織的ないじ め防止策の積極的な推進を図る。 (1) いじめゼロ強調月間の取組 の充実 (2) 教育相談並びに児童指導委 員会の充実 (3) 年 4 回のいじめアンケート の実施と結果の効果的な活用	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>68.8</td><td>92.3</td><td>97.0</td></tr></table> 数値指標は、児童が 95%超の肯定的回答で あり、数値上は目標値を達成することができ た。しかし、保護者と児童及び教職員との数 値に大きな開きがあることから、学校の取組 が十分理解されていないのではないかと考え られる。 取組を地道に継続するとともに、情報提供 の在り方を工夫することで保護者の肯定的回 答を高めたい。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	68.8	92.3	97.0
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100.0	68.8	92.3	97.0								
A 6 日課、授業、学校行事な どの教育課程は、適切に実 施されている 【数値指標】 全体アンケート 「私の学校生活や様々な活動は充	1 日々の教育実践の記録等を累 積し、より適切な教育課程の編成 を推進する。 (1) 週案による時数管理の徹底 (2) 各行事反省による評価資料 の収集と次年度計画への反映	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>98.6</td><td>100.0</td><td>91.8</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 90%以上 であり、十分満足できる結果となった。 累積された教育実践の記録等を分析し、さ らにゆとりのある充実した学校生活になるよ	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	98.6	100.0	91.8
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100.0	98.6	100.0	91.8								

実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	2 学校評価の結果を検証し、児童や保護者、地域住民等の思いや願いを十分生かした教育課程の編成に努める。 (1) マネジメントサイクルを重視した教育活動の展開 (2) 校内評価委員会を活用した組織的な評価の実践	う年間行事配列の適正化に努めるようにする。	【次年度の方針】 A 4の項で述べたように、各種行事のスリム化（内容の精選・実施方法の見直し等）を更に進め、ゆとりのある充実した学校生活の実現に努めようにする。そのために、各種行事等のねらいを再確認し、より効率的、効果的な指導法を検討するようにする。また、学校評価の方法についても見直しを図り、より実効性の高い評価になるよう努力する。								
			【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>96.8</td><td>100.0</td><td></td></tr></table> 数値指標は保護者の肯定的回答 95%超と非常に高い評価を得ることができた。 年間2回の土曜授業及びオープンスクール、学校行事の積極的な公開等が評価されたと考えられる。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	96.8	100.0	
			教職員	保護者	地域住民	児 童					
			100.0	96.8	100.0						
A 【次年度の方針】 学校公開については今年度の取組を踏まえ、更に充実させるようにする。特に、土曜授業については家庭・地域との連携及び交流を一層推進できるよう工夫するようにする。 情報発信については、各種だより等の活用を更に推進するとともに、ホームページもより積極的に活用するよう努力する。また、情報公開のためのプロジェクトチームを校内で組織し、より工夫した情報提供が成されるようにする。											
【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>95.6</td><td>98.0</td><td>92.5</td></tr></table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が 95%超であり、十分満足できる結果となった。 学校支援ボランティアの積極的な活用、地域協議会との連携等により、地域の教育力を活かした特色ある教育活動が推進されたことが評価されたと考える。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	95.6	98.0	92.5			
教職員	保護者	地域住民	児 童								
100.0	95.6	98.0	92.5								
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 学校公開を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。 (1) オープンスクール等による学校公開の推進 (2) 学校行事公開や地域ボランティアとの連携による教育情報の積極的な発信 2 各種だより等を活用し、家庭や地域への、教育情報の積極的な発信を推進する。 (1) 学校だより、学年だより、保健だより、食育だより、図書館だより等の定期的発行 (2) ホームページの定期的な更新による情報発信	A 【次年度の方針】 学校公開については今年度の取組を踏まえ、更に充実させるようにする。特に、土曜授業については家庭・地域との連携及び交流を一層推進できるよう工夫するようにする。 情報発信については、各種だより等の活用を更に推進するとともに、ホームページもより積極的に活用するよう努力する。また、情報公開のためのプロジェクトチームを校内で組織し、より工夫した情報提供が成されるようにする。									
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 地域の教育力を積極的に活用し、地域に根差した特色ある教育活動を推進する。 (1) 学校支援ボランティアの積極的な活用 (2) 地域連携教員を中心とした組織的な取組の推進 (3) 地域学習素材や人材の活用 2 石井小学校地域協議会と連携した、地域の学校づくりを積極的に推進する。 (1) 地域コーディネーターとの連携の強化 (2) 学校経営方針と関連付けた特色ある事業の展開 (3) 地域と保護者、保護者相互のつながりを深める取組の実践	A 【次年度の方針】 学校支援ボランティア調整会議を年間行事に明確に位置づけ、ニーズの把握をしっかりと行うとともに、地域コーディネーターの常駐日を設定することで、学校支援ボランティア活用の一層の推進を図るようにする。また、地域協議会との連携を更に強化し、特色ある事業を新たに展開することで、心を育む教育活動の推進を図るようにする。									
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境であ	1 学校配当予算の効果的な執行及びPTAとの連携により、教材備品等の整備を推進する。 2 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境	B 【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>94.1</td><td>93.4</td><td>100.0</td><td>89.2</td></tr></table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が 90%超、と高い評価を得ることができた。 現状に満足することなく、「児童と教師の協	教職員	保護者	地域住民	児 童	94.1	93.4	100.0	89.2	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
94.1	93.4	100.0	89.2								

	る」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 B 1 教職員は、児童・保護者との信頼関係を築き、居がいのある学校づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、保護者と連絡を密にしながら指導に当たっている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	づくりを推進する。 (1) 日常点検、定期点検等の安全点検の充実 3 児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 (1) 縦割り班清掃活動の充実 ① 清掃強化週間の設定 ② 清掃ボランティアの活用 1 家庭と連携して、一人一人のよさを認め励ます教育を充実させることで、自尊感情を育むことに努める。 (1) 褒めて伸ばす教育の推進 (2) 児童相互に認め合う場の設定 2 校内組織を活用して、問題行動の早期発見、早期対応に努めるとともに、家庭や関係機関と連携した指導の充実を図る。 (1) 学年会での積極的な情報交換による情報の共有化 (2) 児童指導委員会、いじめ防止対策委員会を活用した組織的な取組の推進	働」という視点を大切にし、清掃活動をより充実させるようにする。また、安全点検や掲示計画についても工夫・改善を図るようにする。 【次年度の方針】 縦割り班清掃については、児童の勤労意欲を更に高めるため、発達段階に応じた指導を一層充実させるようにする。また、トイレ清掃など特殊な清掃場所については、清掃手順を分かりやすく伝えられるよう指導法を工夫するとともに、清掃ボランティアの参加機会を増やすようにする。 安全点検結果の修繕補修については、迅速な対応を心掛け、学校業務嘱託員及び学校機動班と連携して適切に修繕補修を行うよう努力する。 【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100.0</td><td>82.9</td><td></td><td></td></tr> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が 80%を超え、数値目標をとりあえず達成することができ。しかし、保護者と教職員との数値に大きな開きがあることから、学校の取組が十分理解されていないのではないかと考えられる。 これまでの取組を地道に継続するとともに、情報提供の在り方を工夫することで保護者の肯定的回答を高められるように努力したい。 【次年度の方針】 今年度の取組を真摯に反省し、「認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校」という学校像の具現化に向けて、何が必要か、また、どんな取組が望まれているのかについて検証するようにする。また、取組を伝達するための情報発信の方策について検討する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	82.9		
教職員	保護者	地域住民	児童								
100.0	82.9										
教育活動の状況	A 10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 家庭や地域と連携し、あいさつ運動の積極的な推進を図る。 (1) 年 5 回の地域学校園あいさつ運動の取組の充実 (2) 校内あいさつ運動（4、9、1 月）の積極的な展開 (3) 教師の率先垂範による日常的なあいさつ指導の推進	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>91.2</td><td>66.3</td><td>92.3</td><td>86.7</td></tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 85%超となり、目標を達成することができた。しかし、保護者と児童及び教職員・地域住民との数値に大きな開きがあることから、学校の取組が十分に理解されていないのではないかと考えられる。ただ、昨年度に比べて数値的には向上しており、粘り強く取組を進めるとともに、家庭への啓発も推進する。 【次年度の方針】 年間 3 回の校内あいさつ運動の取組を充実させるとともに、教師の率先垂範による日常的なあいさつ指導の一層の充実を図ることで、あいさつの習慣化を更に推進するようにする。また、あいさつ運動での取組の様子をホームページ等で情報発信し、家庭でのあいさつの習慣化についても協力を呼びかけようにしたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	91.2	66.3	92.3	86.7
教職員	保護者	地域住民	児童								
91.2	66.3	92.3	86.7								

健康・体力	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 言語活動を充実させ、児童一人一人のコミュニケーション能力を高める指導を積極的に行う。 (1) 国語科学習指導の充実 (2) 会話科「ことばの時間」の指導法の工夫 2 思いやりの心を育み、相手の気持ちを考えた気持ちの良い言葉遣いのできる児童の育成を推進する。 (1) 日常の道德教育の充実 (2) 人権教育の充実と人権週間の取組の工夫・改善 (3) 教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>85.3</td><td>72.3</td><td>90.0</td><td>83.8</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 80%超となり、とりあえず目標を達成することができた。しかし、A10の項目同様、保護者と児童及び教職員との数値に大きな開きがあることから、学校での取組と家庭での実践のギャップが大きいのではないかと考えられる。ただ、昨年度に比べて数値的には向上しており、粘り強く取組を進めるとともに、家庭への啓発も推進するようにしたい。 【次年度の方針】 言葉づかいの指導に対する教職員の意識を統一するために、言葉づかいに関する指導指針を作成し、それを活用した指導に全校体制で取り組む。また、児童が自らの言葉遣いの問題点に気付いていない状況が考えられるので、TPOを意識した言葉遣いを低学年からしっかり身に付けさせるようにしたい。更に、月の重点課題を設定することで、指導の充実を図るようにしていきたい。	教職員	保護者	地域住民	児 童	85.3	72.3	90.0	83.8
	教職員	保護者	地域住民	児 童							
	85.3	72.3	90.0	83.8							
A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 日常的な体育活動の充実を図り、進んで健康や体力の保持・増進に努める児童の育成を図る。 (1) 元気っ子体力チェックによる実態の把握と改善策の検討 (2) 補強運動の計画的実践 (3) 各種検定表を活用した主体的な体力づくりの推進 2 競い合い、高め合う体育的活動を積極的に取り入れ、自主的に体力づくりに励む児童を育成する。 (1) うつのみや元気っ子チャレンジへの積極的な参加	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>94.1</td><td>90.4</td><td>93.3</td><td>91.5</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 90%超であり、満足できる結果となった。 コミセン改築工事に伴い校庭が狭くなったが、各種検定表を活用した主体的な体力づくりの推進や、新たに実施したドッジボール大会の取組に代表される体育的な行事の充実により、健康や体力の保持・増進に努める児童の育成が図れたと考える。 【次年度の方針】 体育的活動を更に充実させ、進んで健康や体力の保持・増進に努める児童の育成を推進していく。その際、他の教育活動とのバランスを考え、年間を見通した、より意図的・計画的な実践がなされるよう、内容・方法等を見直すようにする。また、ホームページ等で体育的活動の様子を積極的に公開し、家庭と連携した生涯体育の基礎作りを推進する。	教職員	保護者	地域住民	児 童	94.1	90.4	93.3	91.5	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
94.1	90.4	93.3	91.5								
A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、好き嫌いをなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 望ましい食習慣の形成を図るために、意図的・計画的な食育の推進を図る。 (1) 給食時の校内放送を活用した食育活動の展開 (2) 学校栄養士と連携した「食に関する指導」の充実 (3) 学校保健給食委員会を活用した組織的な取組の推進 2 食に関する情報発信を積極的に行い、家庭と連携した食に関する取組を充実させる。 (1) 食育だよりを通した食育に関する啓発の推進	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児 童</th></tr><tr><td>94.1</td><td>72.0</td><td>93.5</td><td>81.2</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 80%以上となり、目標を達成できた。しかし、保護者と児童及び教職員との数値に大きな開きがあることから、学校での取組の成果が家庭での実践に反映されていないことがうかがえる。 家庭との連携を図りながら、より食に関する指導を充実させたい。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続・発展させることで、意図的・計画的な食育の推進を更に進めるよう努力する。特に、給食に関する指導の際の、児童の努力を認め、励ます声掛けの充実を図	教職員	保護者	地域住民	児 童	94.1	72.0	93.5	81.2	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
94.1	72.0	93.5	81.2								

		(2) 年3回のお弁当の日の取組の充実		り、児童の意欲を高めるようにする。また、食育だよりによる家庭への啓発の推進についても、児童の様子などを具体的に紹介する等、学校での取組への理解を促すような工夫を行うようにする。								
学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 基本的な学習態度の徹底を図り、学び方を身に付けた児童を育成する。 (1) 授業開始時刻前着席の徹底 (2) 学習用具等の業間時準備の徹底 (3) 「学びのノート」の有効活用 (4) 朝の学習の工夫 2 「石井っ子の学習」に基づいた家庭と連携した指導を推進し、主体的な学習態度や学習習慣の育成を図る。 (1) 宿題の適切な分量・内容等の検討 (2) 個の実態に応じた自主学習の習慣形成 (3) 認め励ます指導を中心とした個に応じた支援の充実	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>92.0</td><td>97.3</td><td>91.8</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 90%超となり、目標を十分に達成することができた。 次年度は今年度実践した社会科の研究成果を活かし、さらに活気あふれる授業づくりを目指し、主体的に学ぶことのできる児童の育成を一層推進していくようにする。 【次年度の方針】 社会科の研究で得られた知見を整理し、単元全体や単位時間の学習過程を明確に確立し、全校体制で指導の徹底を図ることで、主体的な学び方を身に付けた児童の育成を図るようにする。 また、「石井っ子の学習」に関する教職員間の共通理解をしっかりと図り、身に付けるべき基礎的・基本的な学習態度を発達段階に応じて確実に習得させるようにする。さらに、学年だより等を活用して、家庭と連携を図りながら望ましい学習習慣の確立を図るよう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	92.0	97.3	91.8
	教職員	保護者	地域住民	児 童								
	100.0	92.0	97.3	91.8								
A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 「発表の仕方」「話の聞き方」に関する基本的な学習態度や学習技能の習得を図るために、指導法を工夫・改善する。 (1) 発達段階に応じた「発表の仕方」「話の聞き方」のポイントの掲示 (2) 小集団学習の効果的な活用 2 視覚情報を制限し、落ち着いて学習できる教室環境づくりを進める。 (1) 前面黒板周りの整理 (2) 計画的な作品掲示	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>94.1</td><td>87.6</td><td>100.0</td><td>82.9</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 80%以上となり、目標値を上回った。しかし、児童と教職員との数値に大きな開きがあることから、落ち着いた学習に関する受け止め方にギャップがあることが考えられる。 今後は、望ましい学習態度を児童に明確に示すとともに、その習得に向けて努力すべきことを個の実態に応じた的確に示すことで、教職員と児童の目指すべき方向性を一致させるようにする。また、発達段階に応じた学び方の習得を更に徹底させることで、より主体的に学ぶ児童の育成を推進するよう努力したい。 【次年度の方針】 「発表の仕方」「話の聞き方」に関する基本的な学習態度や学習技能の習得を徹底し、学習規律をしっかりと身に付けた「学ぶ集団づくり」を一層推進する。 また、小集団学習の効果的な活用法について発達段階ごとに再度整理し、学び合い、高め合う学習指導の充実を図るようにする。	教職員	保護者	地域住民	児 童	94.1	87.6	100.0	82.9	
教職員	保護者	地域住民	児 童									
94.1	87.6	100.0	82.9									
B2 児童は、進んで本を読もうとする意欲をもち、読書が習慣化されている。 【数値指標】 全体アンケート	1 読書指導を充実させ、自ら進んで様々な本に接しようとする児童を育成する。 (1) 朝の読書活動の充実による読書習慣の形成 (2) 学校図書館等、読書環境の	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児 童</td></tr><tr><td>100.0</td><td>88.7</td><td>100.0</td><td>86.0</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 85%以上となり、目標値を上回った。しかし、児童と教職員との数値に大きな開きがあることか	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	88.7	100.0	86.0	
教職員	保護者	地域住民	児 童									
100.0	88.7	100.0	86.0									

	「児童は、進んで本を読み、読書に親しんでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	整備による意欲付け (3) 読み聞かせボランティアとの連携による意欲付け (4) 図書館だよりやBOOK 新聞をととした啓発活動の推進	ら、読書に関する意識に大きな差があることが考えられる。今後は、児童の実態を精査するとともに、これまでの取組をしっかりと振り返り、意識のギャップを埋めるような実践を展開するようにする。 【次年度の方針】 学校図書館を含めた、学校全体の読書に関する環境整備を一層推進し、児童の読書意欲を高めるようにする。また、図書館だよりを活用して「親子読書」を推進し、家庭と連携した読書指導の充実を図るようにする。 読み聞かせボランティアとの連携も強化し、児童の実態に応じた魅力ある読み聞かせを継続的に実践するようにする。								
本校の特色・課題等	B 3 学校は、地域協議会と連携し、親子のふれ合いや地域の方々との交流に努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域協議会と連携し、親子のふれあいや地域の方々との交流に努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 保護者や地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、家庭・地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 (1) 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進 (2) ボランティア調整会議による学校支援ボランティアの計画的な活用 (3) PTA、地域各団体共催による「秋祭り」による交流の推進	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td><td>91.7</td><td>100.0</td><td></td></tr> </tbody> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が 90%超となり、十分満足できる結果となった。 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進や本校の特色的な取組である「秋祭り」の成果が評価につながったと考えられる。 A 【次年度の方針】 保護者や地域団体・地域人材の積極的な活用を更に推進するために、ボランティア調整会議による学校・地域、双方のニーズの把握をしっかりと行い、学校支援ボランティアのより計画的な活用を目指す。 また、家庭・地域と共に歩む魅力ある学校づくりを更に推進するために、PTAや地域協議会との連携を一層強化するとともに、自治会や育成会等、地域各団体との連携の在り方についても新たな方策を検討する。	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	91.7	100.0	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	91.7	100.0									

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【成果】

18 の評価項目の全てで設定した数値指標を上回り、ねらいを十分に達成することができた。中でも、次の 8 項目は全評価対象者から 90%超の肯定的回答が得られ、十分に満足できる結果となった。(A は宇都宮市共通の評価項目、B は本校独自の評価項目)

- ・ A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。
- ・ A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。
- ・ A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。
- ・ A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。
- ・ A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。
- ・ A 12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。
- ・ A 14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。
- ・ B 3 学校は、地域協議会と連携し、親子のふれ合いや地域の方々との交流に努めている。

特に、A 1、A 2 並びに B 3 の肯定的回答の割合が高かったことは、全教職員の日々の実践の積み重ねが評価されたものであると受け止めた。結果に甘んじることなく、「明るく活力のある学校」「温かく居がいのある学校」「地域に開かれ信頼される学校」の実現に向けて、今後も地道に努力し、児童・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進していくようにする。

A 7 の評価項目では、保護者及び地域住民から高い評価を得ることができた。土曜授業、学校公開等を次年度も継続するとともに、実施内容や方法を工夫・改善することで、更に「開かれた学校づくり」を推進していきたい。

A 8 の評価項目では、大変高い割合で肯定的回答を得ることができた。地域協議会との連携がスムーズになされ、地域の教育力を活かした特色ある教育活動が展開できたことは今年度の大きな成果の 1 つであるといえる。次年度も、地域協議会との連携を拡大し、より充実した教育活動が展開できるようにしたい。

【課題】

18 の評価項目中、次の 4 項目はねらいを達成することができたが、保護者の肯定的な回答が教職員、地域住民、児童の 3 者と比べて、著しく低い結果となり、取組の成果に対する認識の差をどう改善するべきか考慮する必要がある。基本的にはこれまでの取組を更に充実させ、児童の好ましい変容を引き出すことに重点を置きたい。また、取組の成果を積極的に情報発信することで、本校の教育実践に対する理解を深めることができるようにしていきたい。

- ・ A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
- ・ A 10 児童は、進んであいさつをしている。
- ・ A 11 児童は、正しい言葉づかいをしている。
- ・ A 13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。

A 5 については教育相談の充実によるいじめの早期発見・早期解決を積極的に推進してきた。しかし、取組の内容が十分に保護者に伝わっていない現状が明らかになった。些細なトラブルも見逃さないきめ細かな指導を継続するとともに、保護者との連携を密にし、共感的な理解に基づいた積極的な児童指導を一層推進することで、保護者の信頼を得られるよう努力したい。

A 10、11 の 2 項目は、「あいさつ」と「言葉づかい」に関する評価内容であり、社会生活を営む上で必要な、基本的な生活習慣の習得にかかわるものであるといえる。学校独自に行うあいさつ運動や地域学校園で取り組むあいさつ運動の実践は、地域とも連携した全校的な取組で大変充実しているため、今後も継続していきたいが、それ以上に求められるのは、日常的な取組の充実ではないかと考える。日常的なあいさつ運動を行う環境を整えたい。また、言葉づかいに関する指導指針を策定するとともに、学習指導場면을積極的に活用しながら、全校体制で、日常的な言葉づかいに関する指導を充実させていきたい。

A 13 の「食育」については、全体的な肯定的回答の割合が前年度を上回っており、確実に成果が上がってきていると考えられる。今後も意図的・計画的な食育の推進を展開するとともに、家庭への啓発活動を更に充実させるようにしていきたい。

6 学校関係者評価

【成果と課題】

18 の評価項目の全てで設定した数値指標を上回った今年度の評価結果に対して、地域協議会での意見交換の場では、情報公開がよくなされ、地域に開かれた学校づくりが推進された結果、児童及び保護者ばかりでなく、地域住民からも信頼された学校づくりがなされているという評価を得ることができた。特に、教職員の肯定的評価の割合が各項目で高く、自信をもって学校経営に取り組んでいる姿がよく表れているとの意見が出された。

一方、A 10「あいさつ」、A 11「言葉づかい」については、家庭や地域との連携をより強化する必要性を指摘された。具体的には、地域住民が本校児童と積極的にかかわりながら、互いに顔を見知った良好な関係をつくることで、児童のあいさつや言葉遣いにも好影響を及ぼすのではないかと意見が提案された。また、体力づくりとともに豊かな心を育む視点から、地域で児童が伸び伸びと遊べる場づくりの必要性が提案された。自治会単位で子供が自由に過ごせる公園が整備できるよう、関係機関へ働きかけ続けていくことが確認された。

以上のように、学校関係者からは概ね満足できる評価結果を得ることができたが、結果に甘んじることなく、今後も地道な努力を継続するとともに、児童、保護者並びに地域住民のニーズに応じた新たな取組を積極的に実践しながら、地域とともにある学校づくりを推進していきたい。そして、地域から愛され、信頼される学校という高い理想の実現を目指していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者評価では今年度 1 年間の取組の方向性について概ね妥当であるとの意見が出された。特に、「学校運営の状況」については全ての評価項目で数値目標を達成することができ、学校経営方針の下、全職員が一丸となって協働した成果が評価されたのではないかと考える。各評価項目の中で肯定的回答の割合が高かった項目については、次年度も組織的・継続的な取組を充実させ、教育目標の具現化に向けて一層努力していきたい。

一方、肯定的回答の割合が低い項目や評価対象者間の数値のばらつきが大きい項目については、今年度の取組を真摯に振り返り、問題を明確にした上で、より実効力のある具体策を早急に講じたい。特に、「あいさつ」や「言葉づかい」については、地域学校園の共通テーマでもあり、従来以上に地域学校園内の小中学校と連携を強化しながら取り組んでいきたい。また、宮っ子心の教育指導計画に沿って、心を育む教育活動を意図的・計画的に展開し、児童の内面に働きかける指導を積極的に推進したい。マネジメントの運営については、今年度 1 年間のマネジメントサイクルをしっかりと検証し、より確かな学校評価を実施するための具体的な方策や評価結果の情報提供の在り方について検討し、より機能的な組織マネジメントの仕組みを構築したい。